

iPad活用による業務効率化

職員に一人一台ずつ配布された iPad を活用し、業務を効率化。職員の負担を軽減することに成功した。なお、Apple pencil を併用している部分もある。

(1) データを Air drop で簡単転送

職員会議で使用する提案文書はデータ化し、Air drop 機能で瞬く間に職員に配布することができる。インターネットを使用せず Bluetooth で送信できるため、停電やネット不調などの「もしものトラブル」にも強い。

文書データに留まらず、iPad で撮影した写真や動画、授業の教材データ、PDF、インターネットサイトへのリンク、メモ書きなども、Air drop を活用することで楽々共有することができる。

⇒同時に一度で配布できるため
スピーディーな共有が可能。



(2) 経営簿や実施要項収納としても活躍

日々の教育活動の計画や予定などを書き記す手帳や経営簿なども PDF 化し、iPad 上に保存することができる。こうしたものは、Apple pencil で書き込むこともできる。経営簿や実施計画書などを持ち運ぶとかさばるので、iPad 一つに情報を整理・追加することができるて便利。

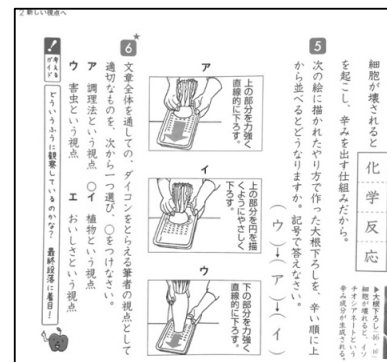
⇒タッチで読み込めるので簡単。
書き込みができるのもポイント。



(3) 文書等の PDF 化

これまでスキャナーを使って文書等を PDF 化してきたが、こちらでも iPad の機能を活用することで簡単にスピーディーに行うことができる。「メモ」機能に「PDF 取り込み」があり、カメラをかざすだけで綺麗に文書等を PDF 化することができる。学習内容をまとめた子どものノートなども、こういった機能でデータ化し、ポートフォリオ化することもできる。

⇒学習プリントやワークなどを
PDF 化・トリミングすることで教材作りにも役に立つ。



(4) デジタル教科書の活用

指導者用デジタル教科書を iPad にインストールすることで、PC 端末を持ち運ばずに教室で活用できる。タッチ操作なので ICT が苦手な先生も扱いやすい。

⇒PC だと立ち上げや準備に時間がかかることがあるが、タブレットならケーブルを繋ぐだけ。



(5) アプリケーションの活用

授業に活用できる様々なアプリケーションが多く、こうしたものを授業などで活用することで、子どもの関心意欲を高め、理解を深めることの手助けになっている。例えば、「星座観察」アプリでは、端末を向けた方位の星空が、その時間に合わせて表示されるため、星の観察の擬似体験に活用できる。「日本地図パズル」アプリでは、都道府県の位置と名前をゲーム間隔で楽しく覚えることができる。

「Number Line」アプリは、数直線を自由に描け、変形させたり比較させたりもできる。この他にも各教科各単元において、有効なアプリケーションを活用できることは、授業が魅力的になるだけでなく、教材準備の負担軽減にもなる。⇒児童生徒が一人一台持っていれば活

用の幅はさらに広がる。台数が少なければグループで使用。



実践成果

iPad 導入前は、ほとんどの教員が学校業務に iPad を活用したことがなく、持て余してしまうのではと心配だったが、使用し始めるとその便利さに驚き、今やなくてはならないものとなった。使い方に困った際も、教員同士の情報交換用スプレッドシート（PMIQ シート）において共有し、一人一人の先生が自身の必要性に合わせて少しずつ慣れていくことができた。現在では、全教員が授業の度に iPad を持ち歩き、職員会議では机上に広げている。行事の際にも持ち歩くには実施要項ではなく、iPad である。（子ども達の様子を撮影するカメラ代わりにもなるので一石二鳥である）

私も元々アナログな人間で、実施要項や週報などを貼り付けた分厚い学級日誌をいつも持ち歩いていた。こうしたルーティーンを崩すことに抵抗があり長年続けてきたが、今回学校全体の取り組みとして機材を整えたことをきっかけに、試しに徹底的に活用してみようと考えた。蓋を開けると、便利さや汎用性の高さに感心し、現在では iPad は業務になくてはならないものとなっている。働き方を変え始めた iPad の活用をきっかけに、今後も業務の効率化を図っていきたい。